

豊かな自然と歴史を織りなし、いきいきした交流を育む圏域づくり

新川地区

広域市町村圏計画

Nyuzen Asahi
Kurobe
Uozu Unazuki



平成13年3月

新川広域圏事務組合

計画策定の目的

社会経済情勢の変化にともなう行政需要の高度化、多様化、広域化と地方分権の動向など、新たな地域課題が現われています。

また、21世紀を迎えて国・県は「21世紀の国土のランドデザイン」の理念や富山県新総合計画などにより新たな方向性を示しています。

この「新川地区広域市町村圏計画」（以下「本計画」という）は、このような状況を踏まえながら、新川地区の将来像を見定め、その実現に向けての基本的方向と施策の内容を明らかにし、圏域住民、圏域構成市町及び広域圏事務組合がともに手を携えて新川地区の圏域づくりに取り組むことを目的として策定するものです。

計画の性格

本計画は、圏域内市町の枠を越えた広域圏行政の役割、広域的な事業、計画を定めるものであり、圏域を構成する市町の役割の確認や、相互調整の指針となるとともに、圏域住民へ圏域づくりの方向性や事業のあり方を示して、ともに圏域づくりを進める目標となる計画です。

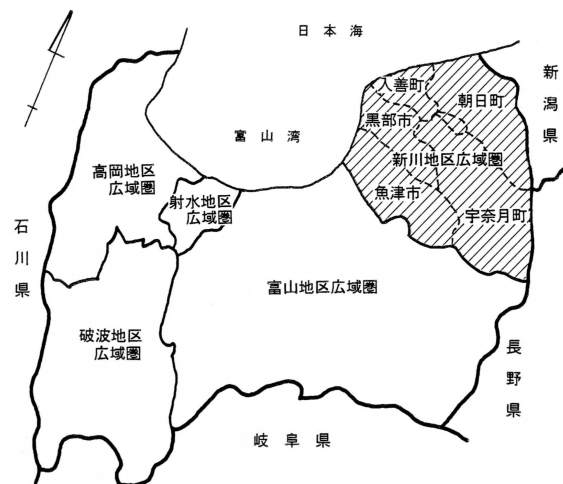
また、国・県に対しては、各種の関連計画との整合を図りながら、圏域の位置づけと将来方向などを提案し、施策、事業の広域行政における位置づけを明確化する計画となります。

なお、この計画は、「ふるさと市町村圏計画」の基本構想、基本計画、実施計画を兼ねるものとします。

計画の区域

本計画の区域は、魚津市、黒部市、宇奈月町、入善町、朝日町の2市3町とします。

新川地区広域市町村圏の位置と構成市町



計画の構成と期間

本計画は、「基本構想」「基本計画」「実施計画」をもって構成します。

〔基本構想〕

新川地区広域市町村圏が目指す望ましい発展の方向性と将来像を明らかにし、その実現のために必要な施策の大綱を示すものとし、平成13年度（2001年度）を初年度、平成22年度（2010年度）を目標年度とします。

〔基本計画〕

基本構想に基づいて圏域の総合的かつ一体的な整備のための施策の体系を定めるものとし、平成13年度（2001年度）を初年度、平成17年（2005年度）を目標年度とします。

〔実施計画〕

基本計画に基づく広域事業の具体的な年次計画であり、その事業の内容、事業主体、事業費、財源内訳などを定めるものとします。当初計画期間は平成13年度（2001年度）から平成15年度（2003年度）の3カ年としますが、以後、毎年度、向こう3カ年の計画を改定するローリング方式を採用します。

1 圏域の特性

位置と地形

新川地区広域市町村圏は、富山県の東部に位置し、東は新潟県・長野県の各県境に、西は早月川を境に富山地区広域圏に接しています。また、北は日本海に面し、南には中部山岳国立公園を含む立山連峰が連なっています。なお、圏域の面積は県の総面積の約1/5を占めています。

平坦部に比べて山岳部が比較的多く、大きな高低差を境川、小川、黒部川、布施川、片貝川、早月川などの河川が流れており、それぞれがほぼ各市町の境界となっています。

気象条件としては、年間平均気温が平野部で14℃、年間降水量は山岳部では平均4,000mm以上と、わが国屈指の多雨多雪地帯であり、平坦部でも2,500～3,500mmの年間降水量となっています。

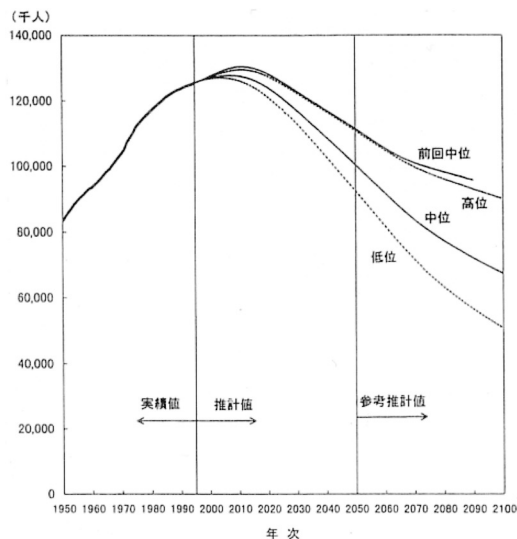
人口・世帯

平成12年（2000年）10月1日現在の圏域の人口は134,414人、世帯数は41,898世帯となっています（ともに国勢調査速報値）。昭和60年（1985年）頃まで増加を続けてきた圏域の人口は、全国的な少子化と圏域からの転出超過によって減少に転じています。なお、この間、富山県全体でも人口は減少傾向に転じました。

住民基本台帳における人口の年齢構成をみると、全国的な傾向と同様に、確実に高齢化が進んでおり、圏域の平成12年（2000年）3月末現在の65歳以上人口は30,074人、総人口に占める割合は22.0%となっています。富山県平均では20.3%となっていることから、圏域は県平均よりも高齢化が進んでいることがわかります。

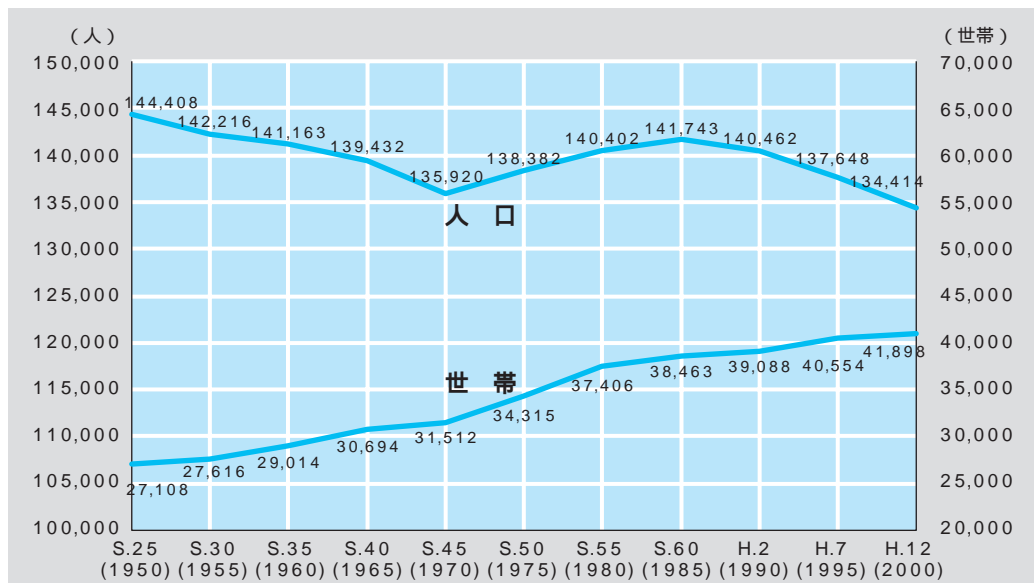
世帯当たり人員数は核家族化や世帯分離が進んだことにより、年々減少しており、平成12年（2000年）10月1日現在3.21人（県平均は3.13人）となっています（国勢調査速報値）。

〔参考〕わが国総人口の将来推計



出典：日本の将来推計人口
平成9年1月推計 /
国立社会保障・人口問題
研究所 編

人口・世帯数の推移

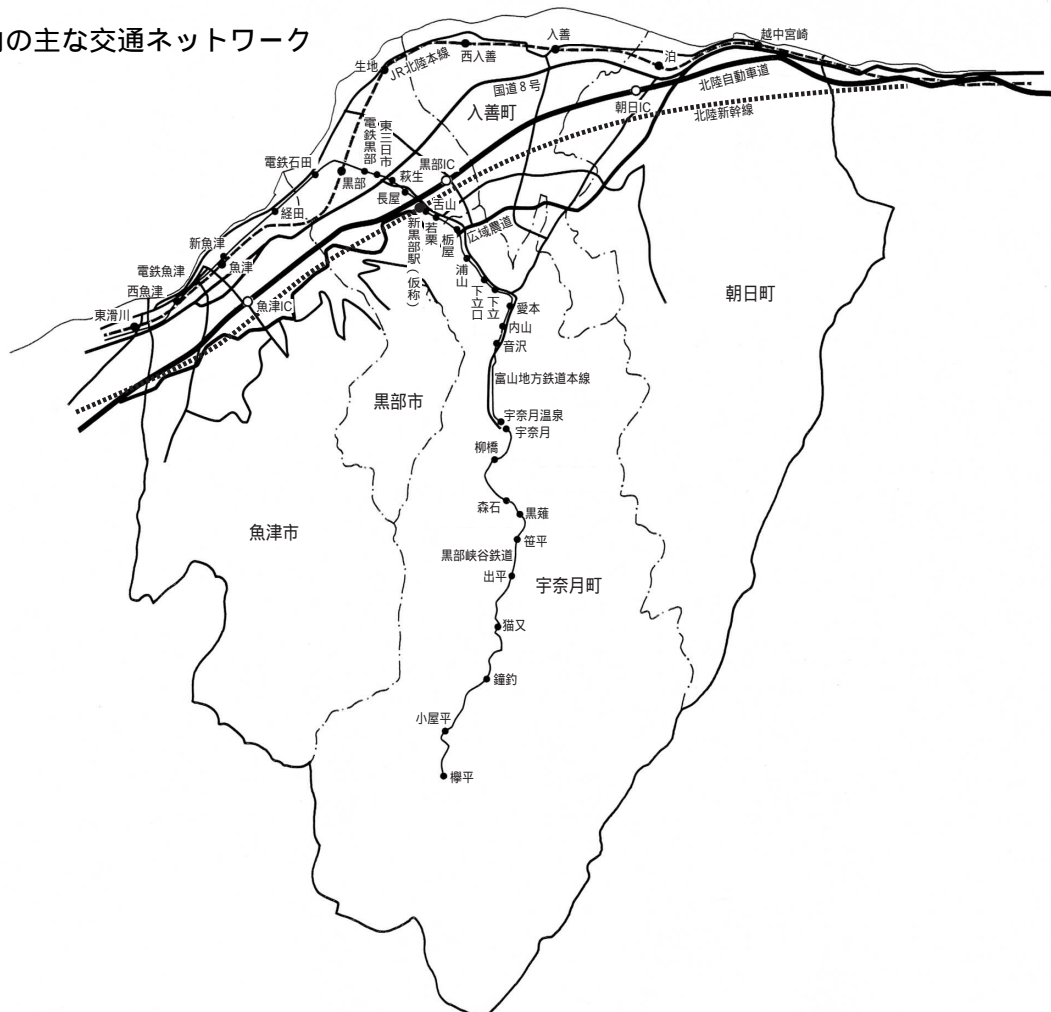


出典：国勢調査報告

ただし、平成12年（2000年）は速報値

域内交通の状況

圏域内の主な交通ネットワーク



圏域の各市町の概況



1 魚津市

魚津市は圏域の西に位置し、早月川をはさんで滑川市と、布施川をはさんで黒部市と、山岳部で宇奈月町と接しており、面積は200.60km²となっています。国勢調査報告（速報値）によると平成12年（2000年）10月1日現在の人口は47,138人、世帯数は14,877世帯となっています。

古くから新川地区の行政・経済・文化の中核都市としての役割を担ってきましたが、昭和27年（1952年）7月の大水害、昭和31年（1956年）9月には大火に見舞われ、大きな被害を受けました。その後の鉄道の高架化や土地区画整理による市街地の再整備により復興を果たし、産業や教育・文化の振興を着実に進め、充実した教育機関や医療・福祉施設などの各種都市機能が集積したことから、富山県東部の拠点都市、新川地区の中核都市として発展してきました。

厩気楼やほたるいか、埋没林などの特色ある自然資源で知られています。近年は「新川文化ホール」や「ありそドーム」、「ミラージュランド」などの文化・スポーツ・レクリエーション施設の充実により、人・産業・文化などの幅広い分野での広域的交流が盛んになっています。

2 黒部市

黒部市は圏域の中央に位置し、布施川をはさんで魚津市と、黒部川をはさんで入善町と、また、黒部インターチェンジ付近から宇奈月町とそれぞれ接しており、面積は86.76km²となっています。国勢調査報告（速報値）によると平成12年（2000年）10月1日現在の人口は36,531人、世帯数は11,490世帯となっています。

黒部市は富山県東部を代表する圏域最大の工業都市であり、第2次産業就業率が約半数を占め、また、大規模商業施設の立地などにより圏域内では「働く場」として他市町からの通勤流入が最も多い都市となっています。

近年、「国際文化センター」や「総合体育センター」などの文化・スポーツ施設の充実が図られ、海外を含め圏域内外からの人びとの交流の拠点としての役割も大きくなっています。

また、北陸新幹線の新駅設置が予定されており、将来的には新幹線新駅周辺が圏域の新たな中心拠点となることが見込まれます。

3 宇奈月町

宇奈月町は富山県の東端部にあり、圏域の4市町に囲まれる形となっており、圏域内では最も面積が大きく、341.20km²となっています。国勢調査報告（速報値）によると平成12年（2000年）10月1日現在の人口は6,553人、世帯数は2,286世帯となっています。

本町は面積のほとんどが山岳地であり、日本で最も険しい山岳地帯である北アルプスの一部を構成し、国際的にも有名なV字峡黒部峡谷の玄関口となっています。国内有数の急流河川である黒部川が流れる本町は、古くから水力発電が行われてきた全国一の水力電源のまちであると同時に、大正12年（1923年）に開かれた宇奈月温泉に代表される観光のまちでもあります。

近年、国際コンベンション施設やセレネ美術館、麦酒館などが整備され、幅広い広域的交流が盛んになっています。

4 入善町

入善町は圏域の中央北部に位置し、黒部川を境に黒部市、宇奈月町と、小川などを挟んで朝日町と接しており、面積は71.29km²となっています。国勢調査報告（速報値）によると平成12年（2000年）10月1日現在の人口は28,277人、世帯数は8,259世帯となっています。

本町は日本屈指の美しさを誇る黒部川扇状地に位置しています。これまで黒部川の氾濫による幾多の水害を乗り越え、コシヒカリで知られる県内有数の穀倉地帯を築くとともに、ジャンボスイカやチューリップなど扇状地の特性を活かした農産物を育ててきました。また、大規模工場が立地し、農工一体の町として発展してきました。

豊かな水の恩恵を受ける本町は、名水百選に選ばれた「黒部川扇状地湧水群」や国指定天然記念物「杉沢の沢スギ」などの自然資源をはじめ、旧水力発電所を再生して整備した「下山芸術の森・発電所美術館」などを活用して、圏域内外に向けた「水文化」の創造発信を続けています。さらに新たな水資源である海洋深層水の利活用による水産業発展と新産業創造への取り組みが始まりました。

5 朝日町

朝日町は圏域の東端に位置し、東は新潟県青海町、糸魚川市と、西は入善町、南は宇奈月町及び長野県白馬村と接しており、面積は227.41km²となっています。国勢調査報告（速報値）によると平成12年（2000年）10月1日現在の人口は15,915人、世帯数は4,986世帯となっています。

町の東・南部には白馬岳、朝日岳を主峰とする北アルプス連峰がそびえ、町の約60%が「中部山岳国立公園」と「朝日県立自然公園」に指定されています。また、海岸には日本の渚・百選に選ばれた「ヒスイ海岸」（宮崎・境海岸）もあり、海拔0mから3,000mのまちとして豊富な観光資源を活かしたまちづくりを進めてきました。

近年は、元来の豊かな観光資源に加え、農村地域総合交流促進施設「なないろKAN」、勤労者総合スポーツ施設「朝日ヒスイ海岸オートキャンプ場」、環境ふれあい施設「らくち~の」などの拠点施設の整備を進め、交流人口の増大を図っています。

2 圏域の課題

圏域の発展に向けた基本的課題

《若者の定住環境づくり、圏域の魅力づくり》

出生率が回復せず、わが国人口のピークが早まり、急速に高齢化が進むことが明確化しています。

加えて、若年層の流出により地域の活力が低下し、高齢化の速度が速まり、それがまた地域の魅力を失わせるといった悪循環を抑止する圏域づくりが特に重要になっています。

そのため、若者の定住を促進する都市的な利便性の向上や、多様で快適でにぎわいのある都市空間の整備、郷土の自然・文化への誇りの醸成などに、より積極的に取り組むとともに、圏域に暮らし、圏域を訪れる魅力を高め、圏域の魅力を情報発信することが、圏域づくりの基本課題となります。

《誰もが安心して暮らし続けられる社会、環境づくり》

高齢社会の到来は必然となり、若者の定住を進めても地域社会の一定の高齢化は不可避であることが明確となっています。

高齢者も女性も誰もが、安心して暮らし続け、身近な職場で働き、子育てができる地域社会、地域環境を形成していくことが圏域構成市町の普遍的な行政課題であり、圏域全体で総合的に取り組むべき基本課題です。

《高齢社会の暮らしと広域交流を支える交通体系の再構築》

社会経済活動の広域化、地域社会の高齢化にともない、さまざまな活動や交流を促進する圏域レベルの円滑で快適な交通体系の重要性が増しています。

圏域には、各市町を結ぶ鉄道網や国・県道路網、広域高速自動車交通網の一環である北陸自動車道などがありますが、モータリゼーションの進展にともなう鉄道・路線バスなどの公共交通利用の減少と利便性の低下、十分とは言えない幹線道路網など、高齢社会、広域交流社会の交通基盤の整備に課題を抱えています。国道8号バイパスの整備など誰もが安全快適に行き来できる圏域交通体系の再構築が重点課題です。

また、北陸新幹線の整備が圏域の社会経済に与えるインパクトは大きく、それを地域の発展に有効に活用するため、圏域交通体系の費用対効果を考慮した効率的な整備を進める必要性が高まっています。

《拠点市街地の再整備、活性化》

近年の幹線道路沿道の商業・サービス系土地利用の進展とあいまって構成市町の中心市街地の商店街の活力の低下、人口の郊外への流出による既成市街地の空洞化は著しく、これに対応するための「都市の再構築」「中心市街地活性化」に係る各種施策・制度に基づく取り組みがなされようとしています。新幹線整備とともに圏域の骨格構造の再編とあわせて、各拠点市街地の再整備、活性化を緊急課題として、重点的な施策展開を図る必要があります。

《高度情報化に対応する情報通信基盤・情報通信システムの確立》

世界の社会経済の高度情報化、IT（情報通信技術）の変革にともない、圏域住民の生活の基盤、広域交流の基盤としての高度情報通信基盤・情報通信システムの重要性が増していますが、新川地区では、県内他圏域に比べてCATVなどの基盤・システムの整備・普及が遅れています。

圏域構成市町間で調整連携を図りながら、効率的、効果的に情報通信基盤・情報通信システムを整備、構築していくことが圏域づくりの重点課題となっています。

《地方分権の受け皿としての広域行政の積極的展開》

地方分権の進捗にともない、分権の受け皿としての広域圏行政の積極的展開が求められています。

圏域の住民にとって、費用対効果を考慮した効率的な行政施策を実施していく観点から、各市町の行政施策の整合を取り、相互に調整された広域行政施策を積極的に展開していくことが重点課題となっています。

また、日常生活圏の拡大に対応して、広域的な行政サービスの提供が求められるなかで、広域行政に対する需要は一部事務組合の枠を越えつつあります。より広域的、効率的な行政を推進する方策を検討するため、合併についての調査、研究などを進める必要があります。

3 圏域の将来目標

圏域の将来像

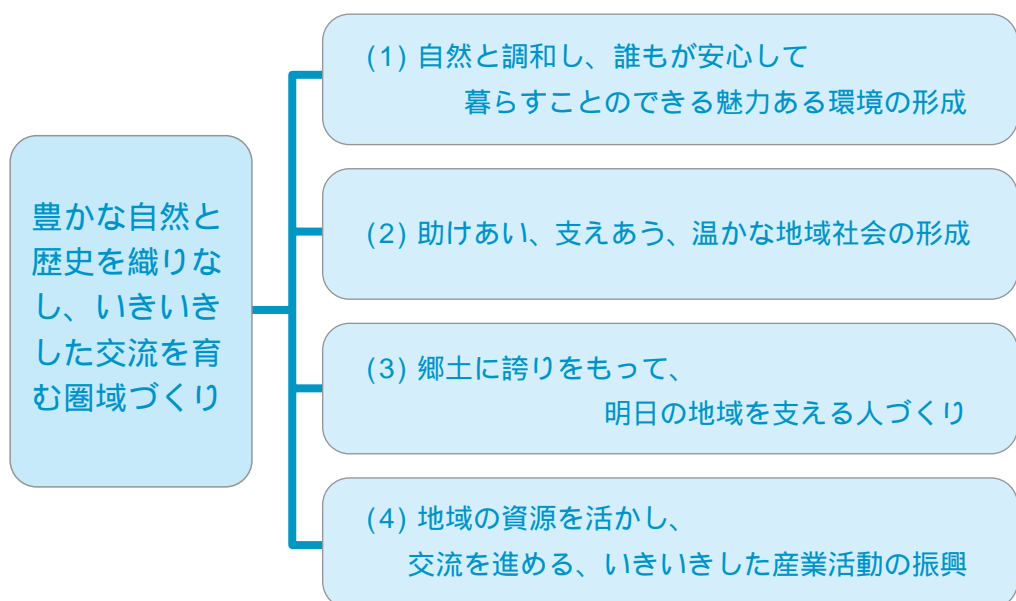
新川地区の各市町は、北アルプスの山々や黒部峡谷などの山岳の環境・景観、そこを源とする豊かな水の資源、古くからの人びとの往来の拠点としての歴史などの恵まれた資源を共有し、活かしながら広々とした田園環境や産業の集積を築き、誠実で粘り強い住民気質、温かい人間関係を育みながら発展してきました。

世界的な社会経済の広域化・グローバル化、高度情報化とわが国社会の少子高齢化、成熟化が急速に進展するなかで、圏域の住民の一人ひとりが文化的、経済的な豊かさを享受し、安心していきいきと暮らすことのできる地域社会を実現するためには、先人の残してくれた豊かな資源を活かし、さらに魅力を高めながら、資源を共有する圏域の連帯感を養い、圏域内外の結びつきを強め、交流を促進して、圏域の一体的な発展を目指すことが必要になっています。

住民と行政が、共に手を携えて進める圏域づくりの目標として、新川地区の将来像を次のように掲げます。

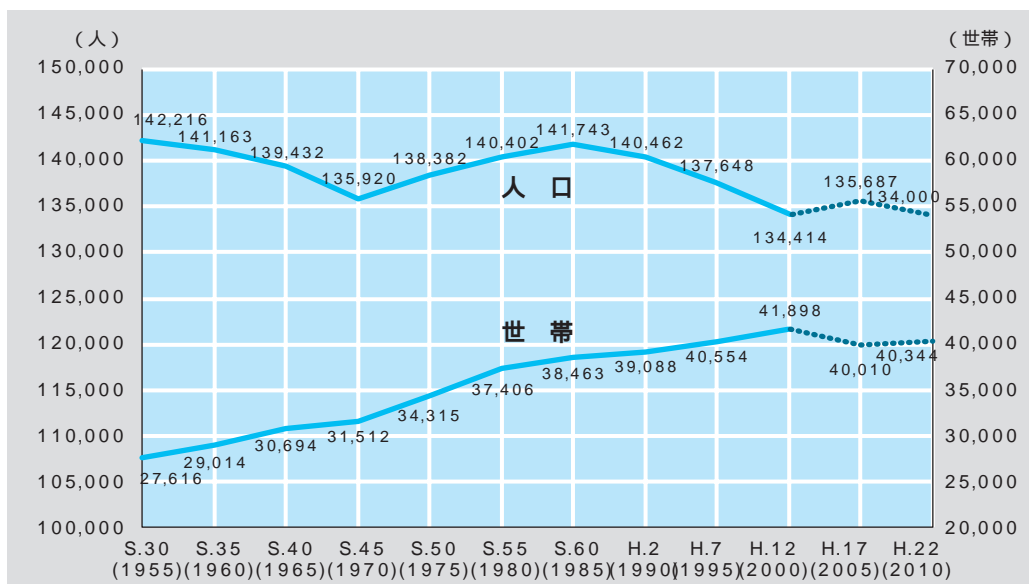
「豊かな自然と歴史を織りなし、いきいきした交流を育む圏域づくり」

この将来像を実現するために、施策の大きな分野ごとに、魅力ある環境づくり、温かな地域社会づくり、地域を支える人づくり、活力を生み出す産業づくりの、4つの柱を建てて具体的な圏域づくりの施策展開の目標とします。



人口と社会構成の見通し

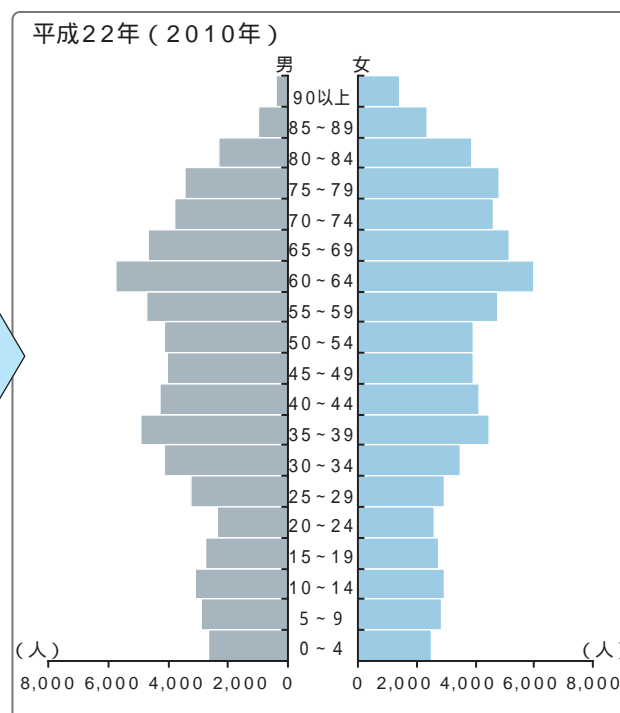
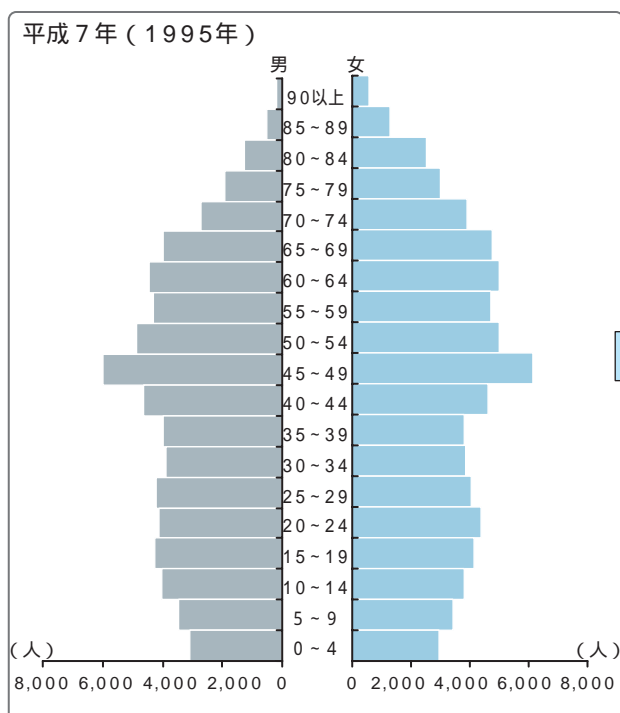
将来人口・世帯数の目標



平成7年（1995年）以前は国勢調査報告による

平成12年（2000年）は国勢調査報告（速報値）、平成17年（2005年）は推計値、平成22年（2010年）は目標値

年齢区分別人口構造の変化の見通し



平成7年（1995年）は国勢調査報告による

市町の発展動向と役割

1 魚津市基本構想の将来都市像

「人と自然と文化が共生する元気都市“魚津”」

市民が元気で幸せに住みつづけるまちづくりを基本理念に、成熟した社会に子どもたちからお年寄りまでが、ともに支えあい元気で生涯住みつづける福祉の充実したまち、恵まれた豊かな自然や資源を守り、それらを十分に活かした自然と共生するまち、歴史や香り高い文化を大切にすまち、人も産業も情報化や交通ネットワークの整備によっていきいきと活動できるまちを目指す。

古くからの圏域の中心地としての歴史や文化を活かし、大きな災害を乗り越えて集積された都市機能を再生、活性化し、高度情報化や幹線道路網の整備促進により、圏域内他市町との連携を深めて、圏域の行政、教育・文化、商業・サービスの拠点都市としての役割を維持、発展させていきます。

2 黒部市基本構想の将来都市像

「名水の里 住みよい黒部」

定住と交流という視点のもと、地域を愛すると同時に広い視野を持つ市民の手で住む人にも訪れる人にもやさしく、個性と活気のあるまちを目指す。

豊かな水資源や工業などの産業活動の集積を定住や交流の資源として活用することや、北陸新幹線新駅や関連する道路網の整備により、圏域の産業、交通の拠点都市としての役割を充実、発展させていきます。

3 宇奈月町基本構想の将来都市像

「自然環境との共生をもとめて新たな生活文化を生みだすまち」

自然とともにある宇奈月、自然がみちみちた生活空間のなかで常に自然環境に配慮した暮らしを、住民と行政が手をたずさえて実現し、誇れるふるさとを築く。

雄大な北アルプス・黒部峡谷と豊かな黒部川の水に恵まれた町として、自然を活かし自然と調和した生活を目指すとともに、訪れる人びととの交流の輪を広げていくまちづくりを目指します。

黒部峡谷や宇奈月温泉などの知名度の高い優れた観光資源を活かし、圏域内他市町や圏域外との交通連絡機能を充実させ、圏域の観光交流の拠点としての役割を充実、発展させていきます。



4 入善町基本構想の将来都市像

「扇状地にひと・くらし輝くまち 入善」

まちづくりの基本視点「人」「土」「水」の特性を最大限に活かし、エコロジー（環境保全）とエコノミー（経済的発展）が人と情報のネットワークで調和するエコ・ネットのまちづくりを進め、やすらぎある郷土の保全と、新産業創造という開発をバランスよく保ち、豊かで美しい扇状地を舞台に、まちづくりの主人公である町民一人ひとりが輝いて暮らす住民自治の実現を目指す。

広大な黒部川扇状地に広がる散居の田園空間や全国名水百選「扇状地湧水群」、富山湾「海洋深層水」など、水と緑の豊かな地域資源を活かして、うるおいある居住環境の形成や個性と魅力にあふれた産業創造、名水に代表される扇状地文化の醸成を進め、豊かな自然環境のなかに新産業と居住空間の調和した田園環境文化都市として圏域の一体的な発展に貢献します。

5 朝日町基本構想の将来都市像

「豊かな自然と文化、活気あふれるまち“あさひ”」

海拔0mから3,000mの変化に富んだ雄大な自然を生かし、先人が培ってきたものを大切にしながら、そこで暮らし、働き、憩えるまちづくりを基本に、世代や地域を越えた生活空間としての 基盤整備と環境整備を行う。

人と人、人と町、人と自然、人と文化、人と歴史の相互の関係がバランスよく成立した町を、町民も主体的に参加しながら調和のとれた総合的な行政のなかで創造していく。

圏域及び富山県の東の玄関口としての位置と、中部山岳国立公園、朝日県立自然公園、ヒスイ海岸（宮崎・境海岸）などの自然環境を活かした圏域の観光ネットワークの一翼を担い、施設整備などにより観光機能を充実させるとともに、自然との共生や地域に根ざした特色ある産業の育成などによる農工商のバランスのとれたまちづくりと居住環境の整備を図り、圏域の一体的な発展に貢献します。

5 広域連携の重点目標

交通ネットワーク

“ 円滑で快適な交通体系の整備、再構築 ”

圏域は、新潟・長野と富山方面を結ぶ交通の要衝に位置していますが、地形的要因もあって、大都市圏と連絡する交通機能、圏域内の各地区を連絡する交通機能が十分に整備されてはいません。

圏域社会の高齢化、住民の活動の広域化の動向を踏まえれば、圏域におけるさまざまな活動の促進、発展のために、他の広域圏と円滑に連絡し、圏域内各地区を快適に結びつける交通体系の充実、再構築が不可欠です。

大都市圏との連絡を強化する新幹線・新駅の整備、広域高規格幹線道路の整備を促進するとともに、それを契機に、体系的な域内幹線道路網の整備と、高齢社会において重要性を増す公共交通機関の充実と利用増進を図り、高齢社会の住民の活動と広域交流を支える新川地区の交通ネットワークづくりに重点的に取り組みます。

情報ネットワーク

“ 高度情報通信基盤・情報通信システムの整備 ”

いきいきとした広域的交流と圏域住民の活動を促し、圏域の活力を維持、増進していくためには、誰もが簡単に情報の受発信などの活用を行うことができる情報通信基盤・情報通信システムが必要となります。

現在、圏域内においてはCATVや光ファイバー網が整備されてきているところですが、今後、さらに全域への整備、拡張を進めるなど、効率的かつ迅速に圏域の高度情報通信基盤の整備を図ります。

さらに、これらの基盤を有効に活用するとともに、圏域住民の情報通信に係る素養の向上を図り、住民の活発な活動と交流を促す新川地区の情報ネットワークづくりに重点的に取り組みます。

環境ネットワーク

“ 広域環境保全・管理システムの確立 ”

北アルプスに源を發し、富山湾に至る清冽な水の流れに象徴される圏域の豊かな自然環境は、圏域構成市町、住民が共有し、誇る貴重な圏域づくりの資源です。

この圏域文化の源でもある雄大な自然環境を圏域の発展に活用しつつ、次世代にしっかりと継承していくためには、圏域構成市町の取り組みだけでなく、圏域全体としての体系的、総合的な取り組みが必要となっています。

広域的な環境管理の体制・システムを検討、確立し、水環境の調査を進めるとともに、資源循環型の圏域社会を形成して、圏域の環境を守り活用する新川地区の環境ネットワークづくりに重点的に取り組みます。

観光ネットワーク

“ 広域観光ルート・拠点の整備、充実 ”

圏域は、北アルプスの山々から富山湾に至る豊かな水と緑の自然環境やその上に育まれた特色ある歴史文化、県下随一の入込み客数を誇る黒部峡谷・宇奈月温泉などの広域的な観光交流の資源に恵まれています。

圏域の発展のためには、広域的な観光交流の動きをさらに拡大し、地域の産業や社会の活力の源として活用していくことが、特に重要です。

圏域内の観光資源や交通の拠点を相互に結びつけ、地域の特産品の生産・販売と結びつけた広域観光ルートの整備、充実、それらの広域観光情報の積極的な発信など、広域的な観光交流を圏域の一体的な発展に活かす新川地区の観光ネットワークづくりに重点的に取り組みます。